



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2016年8月 - 12月号
Vol.36

支援者の皆様へ

活動再開から1年間・・・

いつもお祈りをご支援を心より感謝いたします。

2年間の療養を経て活動を再開したのは一年前の2015年12月でした。この1年間は、「働くことの出来る喜び」を感じつつ、ひとつひとつの奉仕の喜びを味わうことが出来ました。

それでも活動量は療養前と比較すれば4分の1程度で、いまでも「1日動いたら、1日休む」という動き方以上のことをすると、翌週や翌月に、鬱の症状が戻ってきます。11月後半から今この手紙を書いている12月初旬も体調の波は低調で、思うように思考できず、「集中を要する作業」が進みません。かといって外に散歩に行くと神経過敏のため「人とすれ違うだけで消耗」しますので、気晴らしすることにも毎回、ひと苦労しています。病気とは長い付き合いになることは覚悟していましたが、特に、以前と変わらず働けたように感じ、小さな自信が芽生えた直後に体調不良に陥ったときには、

「こんな小さなことで疲れてしまうのか？」

などと、自分を責め、自信を失い、希望の反動として余計、将来に絶望しそうになります。今の私は80歳代ぐらいの「体力と内的エネルギー」しかなく、「都内に半日出かける」ということすらも前日から緊張する「一大イベント」です。



↑療養中に妻が書いてくれた絵本。病気を「うつきくん」と名付け、3人仲良く生きています。



↑近所の公園にて、11月に撮影。

それでも1年間やって来られたのは、皆様のお祈りと、身近な多くの方々の理解と支えのおかげでした。

特に妻の純子は、療養中に書いてくれた絵本にもあるように、病気を克服すべき障害ではなく、愛すべきパートナーとして「外在化」させ、何も出来ず寝ていた日（そういう日も多くありました）には、「よく休めました。病気からの忠告を素直に聞いて、すばらしい。」と励ましてくれました。

また、FVI のカタリスト、役員の方々、練馬グレースチャペルのスタッフや教会員の皆様も、過剰な期待をせず、具合が悪いときには「そっとしておいてくれる」という最上の愛の形を示してくださいました。

お祈り、ご協力、ご支援くださった方々に、心より感謝いたします。

8月後半～12月前半の、各地での活動内容をご報告いたします。

月 日	内 容	場所、補足
8月28日	礼拝での奉仕	練馬グレースチャペル
9月4日	同上	浦和バプテスト教会
9月24-25日	同上	B-1 チャーチ (大阪市)
9月26-29日	「日本伝道会議6」分科会の開催	神戸市
10月15-16日	「世にあって弟子として生きる」プレセミナー開催	ICBC (愛知県)
10月22日	講演会「鬱病からの生還」	支援施設「めだか工房」(愛知県西尾市)
10月23日	礼拝での奉仕	信愛キリスト教会 (豊川市)
10月24日	FVI 総会	本郷台キリスト教会 (横浜市)
11月6日	礼拝での奉仕	新潟グレースネットチャペル (新潟市)
12月11日	同上	練馬グレースチャペル

原発事故後30年、チェルノブイリの今 (ウクライナ報告 vol.2)

4月にウクライナに渡航してから半年以上の間が空きましたが、その間に考えたことも含めて、ご報告いたします。渡航前、私は2015年のノーベル文学賞を受賞したウクライナ人のアレクシエーヴィッチ氏の「チェルノブイリの祈り」を読んでから現地視察に臨みました。30年前の事故直後に彼女は現場に立ち入りましたが、事故を語る言葉の嵐のなか、「今は語るべきときでない」と直観し、その後10年をかけて当事者たちにインタビューを行いました。事故にかけつけた消防士の夫を急性被爆で失った未亡人、ソ連の軍人、またはプリピャチに当時住んでいた一般人などから紡がれた「言葉の断片」を、作家として人々の前に提示した「チェルノブイリの祈り」が評価され彼女はノーベル賞を受賞しました。

私自身、福島での原発事故後、最初の2年は毎月のように福島を訪問し、今もFVIとして関わりをもつ



30年前事故にかけつけた戦車の実物



記念館内部・事故で亡くなった犠牲者の写真



チェルノブイリ周辺は「希少種の動物」の楽園になった

ています。ですから事故後 30 年のチェルノブイリは今どうなっているのか、ということにとっても興味を持っていましたが、実際に現地に行ってみてウクライナの人々と話し、キエフのチェルノブイリ記念博物館などを訪問して感じたことは、訪問前の予想を裏切るものでした。

簡潔にまとめると以下が私の印象です。

- 現在のウクライナの人々にとって「チェルノブイリ」はさほど問題ではない（他の問題が大きすぎて）。
- 現在のチェルノブイリ近辺は、「野生の楽園」である。皮肉にも事故後 30 年で明らかになったのは、自然にとっての本当の脅威は放射能ではなく人間の存在だった、ということだった。

2014 年のロシアによるクリミア侵攻によって、ウクライナという国は、「ポスト冷戦の世界」の矛盾を濃縮した形で引き受けてきたことが顕在化しました。20 年前の独立以来つねに、「国家存亡の危機」に立たされてきたウクライナの人々にとっては、「30 年前の原発事故」はもはや、相対的には小さな問題です。また、日本のような細長い島国であるという地理要因がない広大な平野部のウクライナでは、福島のような徹底した除染と復旧を要しないという点でも大きな違いがあります。

では、私たち日本人がウクライナやチェルノブイリ原発事故から学ぶ事はないのでしょうか？

いや、むしろ日本はウクライナが過去 30 年に歩んできた道のを大いに参考にすべきです。

現在のウクライナ情勢と、30 年前の原発事故はつながっています。チェルノブイリ原発事故はソ連邦崩壊の引き金を引いた「グラスノスチ（情報公開）」の原因であり、ソ連邦崩壊と国際社会のパワーバランスの変化が、現在のロシアの帝国主義と地続きです。

ここでは過去の経験はまったく役に立たない。チェルノブイリ後、私達が住んでいるのは別の世界です。前の世界はなくなりました。でも人はこのことを考えたがらない。このことについて一度も深く考えてみたことがないからです。不意打ちを食らったのです。...、自分たちが知らないもの、人類が知らないものから身を守るのは難しい。チェルノブイリは、私達をひとつの時代から別の時代へと移してしまっただけです。

『チェルノブイリの祈り』から引用

「過去の経験がまったく役に立たない世界」に生きるようになったという点で、東日本大震災後の日本の置かれた状況はチェルノブイリ事故後のウクライナと似ています。また福島第一原発の事故は、「ひとつの時代から別の時代へと私たちを移してしまっただけ」と近未来の日本史において語られることでしょう。

現代は 20 世紀を下支えした物語と価値体系が解体される「時代の過渡期」にあり、21 世紀の戸口に立つ私たちは、「新しい生き方と世界観」を構築し、模索する「サナギの時期」にいるのではないのでしょうか。

私自身、「魂のサナギの時期」を経て、「新しい世界観と生き方」を内面化する個人的な旅の途中にある、と今は感じており、このような時代だからこそ、神がそれを私に経験させてくださったと信じています。

それが「何」であるか明瞭な言葉で語ることは未だに簡単ではありません。しかし、ウクライナの KMJC（メシアニックジャーの会衆）の実践には、何かヒントがあるように思えました。プロテスタントの布教活動が禁止されていたソ連邦時代から、原発事故、ソ連崩壊、さらに現代に続く政治的



KMJC の「麻薬中毒者と刑務所から出所者のためのリハビリ農園」で、ニンニクの種を植える刑務所から出所した青年。社会保障制度がないため、多くの出所者が再犯に走るが、彼らはイエスに出会い、手に職を得る。撮影しながら日本でも「隣人愛」という種が蒔かれるよう祈った。

激動と経済的な不安の中を彼らは生きてきました。そのような中でキエフの人々を惹きつけ成長を続けている KMJC の実践はシンプルです。「政治の混乱・経済の不安がもたらす社会的弱者」に彼らは焦点を当て、「隣人愛」と「人とのつながり」を提供しています。そしてそれを基礎づけているのが彼らの持つ「ものごと」です。旧約聖書から連綿と続く神の愛と救済の物語の中に、彼らの愛の実践と共同体の創出は有機的に位置づけられており、それが「個人がバラバラになり、世界の基盤がゆらぐ」ような激動の過渡期に、キエフの人々を惹きつけ、救済と安息を与えていると私は観察しました。

私の人生の召命は、日本の教会が彼らのような実践に生きるお手伝いをする事だと思っています。そのための「サナギの期間」を、皆様に祈って支えていただけたことを改めて感謝いたします。2017 年が皆様にとって、どうか素晴らしい 1 年となりますように。

祈りの課題

- ◇まだまだ体力が戻ってきていないため、本当はしたくても出来ない奉仕やプロジェクトがたくさんあります。主の御心ならば徐々に体力（内的なエネルギー）がついてくるように。
- ◇少ない体力とキャパシティのなかで、「本当に大切なこと」を選び取る知恵が与えられるように。
- ◇純子と私の健康のため。私たちの家庭が、日本と世界に神の国を広げる働きのために用いられるように。

1 月以降のスケジュール

月 日	内 容	場所、補足
2 月 20-21 日	FVI 役員会	万座温泉ホテル（群馬県）
随時継続的に	FVI の各種活動	国内各地

連絡先

〒443-0013 愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 100-2 国際クリスチャンバプテスト教会内 「陣内俊を支える会」
陣内への Email shun@karashi.net ブログ URL : <http://ameblo.jp/shunjinnai-kingdomcome/>

支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
(同封の振込用紙がご利用いただけます。)

- * 振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- * 振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封させていただきますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）
- * Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。